

2017年3月期決算説明会

2017年5月12日



扶桑化学工業株式会社

I. 2017年3月期決算概要	榎本 常務
II. 事業の概況	赤澤 社長
・ライフサイエンス事業	谷村取締役
・電子材料および機能性化学品事業	政氏取締役
III. 2018年3月期業績予想	赤澤 社長

I . 2017年3月期決算概要



2017年3月期（累計期間）決算概要



（単位：百万円）

	当期実績	前期実績	前年同期比		2/1公表 修正計画	計画比	
			増減額	増減率		乖離額	乖離率
売上高	36,224	35,298	+ 925	+ 2.6%	35,600	+ 624	+ 1.8%
営業利益	9,867	7,279	+ 2,588	+ 35.6%	9,400	+ 467	+ 5.0%
経常利益	10,038	7,299	+ 2,739	+ 37.5%	9,500	+ 538	+ 5.7%
当期純利益	6,895	4,716	+ 2,179	+ 46.2%	6,500	+ 395	+ 6.1%
償却前営業利益	11,209	9,077	+ 2,131	+ 23.5%	10,806	+ 402	+ 3.7%
一株当たり 当期純利益	194.2 円	143.7 円	+ 50.4 円		183.0 円	+ 11.1 円	

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	前期 ('16/3期)	当期 ('17/3期)	前年同期比		前期 ('16/3期)	当期 ('17/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
ライフサイエンス事業	23,285	22,050	△1,235	△5.3%	3,541	3,979	+438	+12.4%
電子材料および 機能性化学品事業	12,012	14,174	+2,161	+18.0%	4,694	6,996	+2,302	+49.1%
(調整額)	—	—	—	—	△955	△1,108	△152	—
計	35,298	36,224	+925	+2.6%	7,279	9,867	+2,588	+35.6%

2017年3月期四半期別セグメント別業績推移



(単位：百万円)

		2017年3月期				上期	下期	通期
		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	(4-9月)	(10-3月)	(4-3月)
売上高	当期	8,796	8,436	9,543	9,448	17,232	18,991	36,224
	前期	8,925	8,651	8,924	8,796	17,577	17,721	35,298
ライフサイエンス事業	当期	5,368	5,211	5,818	5,651	10,580	11,470	22,050
	前期	5,695	5,820	5,911	5,858	11,516	11,769	23,285
電子材料および 機能性化学品事業	当期	3,428	3,224	3,724	3,797	6,652	7,521	14,174
	前期	3,230	2,831	3,013	2,938	6,061	5,951	12,012
営業利益	当期	2,441	2,111	2,804	2,509	4,553	5,314	9,867
	前期	1,730	1,833	1,942	1,772	3,564	3,714	7,279
ライフサイエンス事業	当期	986	924	1,207	861	1,911	2,068	3,979
	前期	631	1,014	1,019	874	1,646	1,894	3,541
電子材料および 機能性化学品事業	当期	1,719	1,466	1,852	1,958	3,185	3,811	6,996
	前期	1,331	1,057	1,154	1,150	2,389	2,304	4,694
(調整額)	当期	△264	△278	△255	△310	△542	△565	△1,108

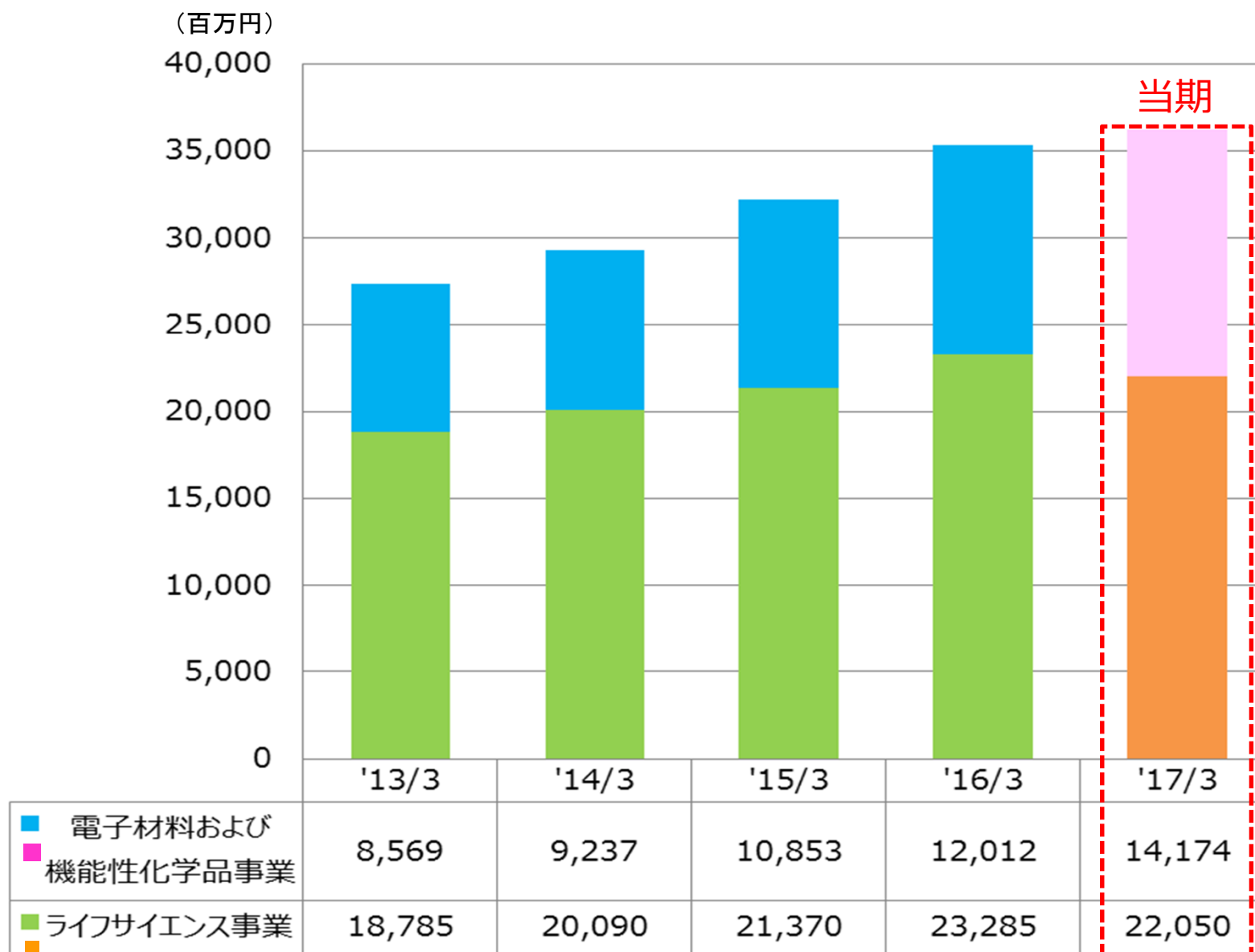
セグメント別売上高・営業利益【過去3年】



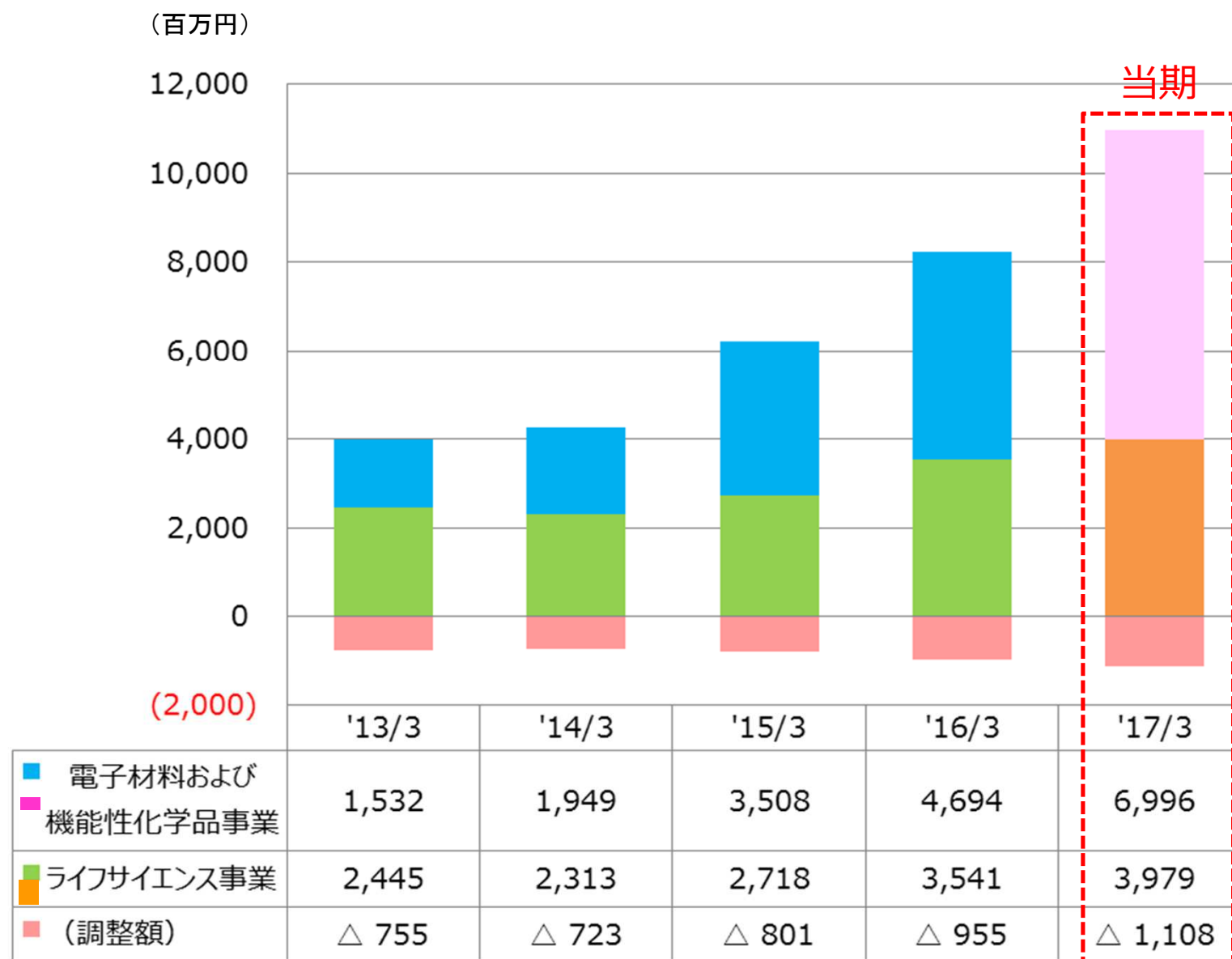
(単位：百万円)

	'15/3期	'16/3期	'17/3期
売上高	32,223	35,298	36,224
ライフサイエンス事業	21,370	23,285	22,050
電子材料および 機能性化学品事業	10,853	12,012	14,174
営業利益	5,426	7,279	9,867
ライフサイエンス事業	2,718	3,541	3,979
電子材料および 機能性化学品事業	3,508	4,694	6,996
調整額	△801	△955	△1,108
売上高営業利益率	16.8%	20.6%	27.2%
ライフサイエンス事業	12.7%	15.2%	18.0%
電子材料および 機能性化学品事業	32.3%	39.1%	49.4%

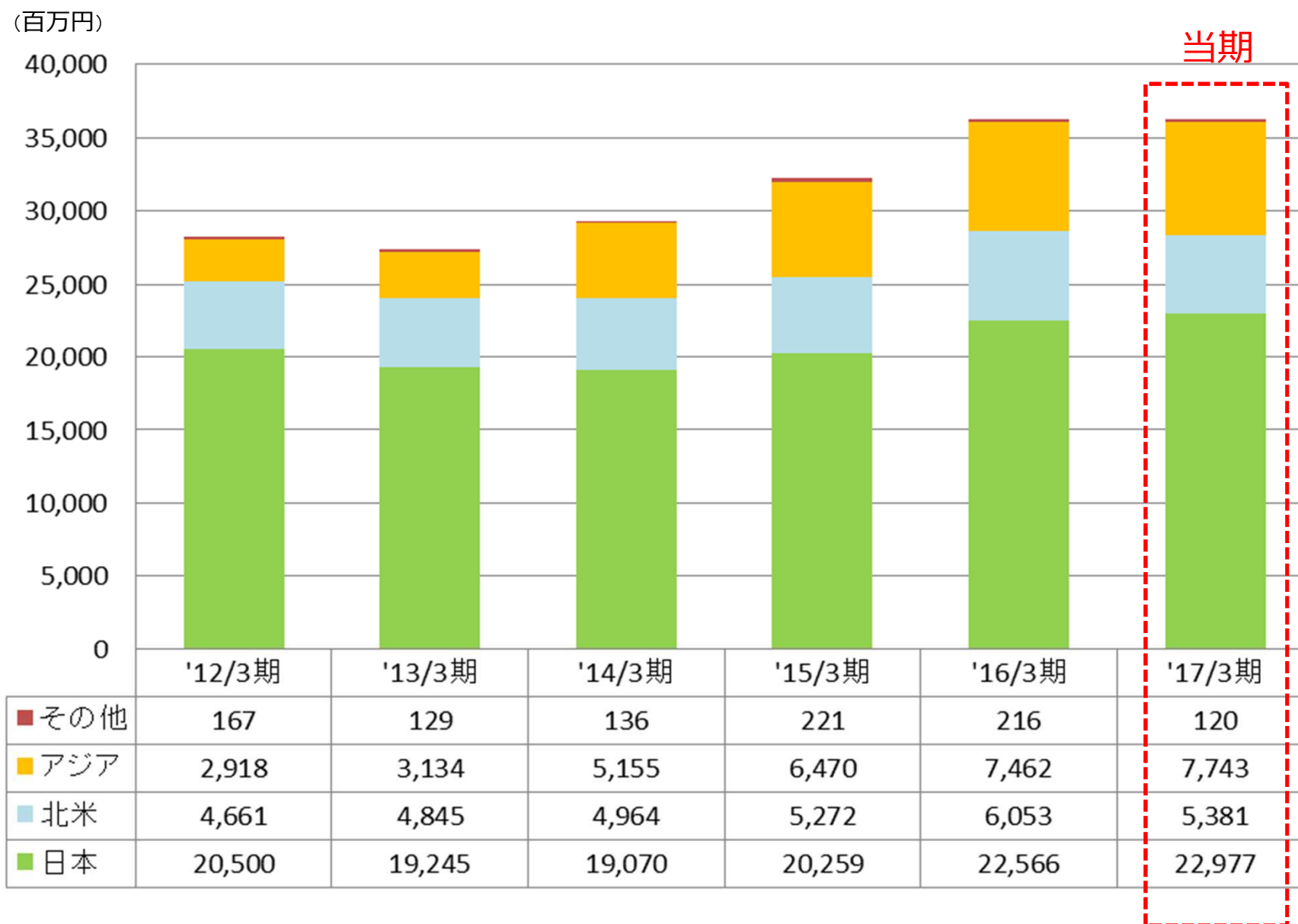
セグメント別売上高推移



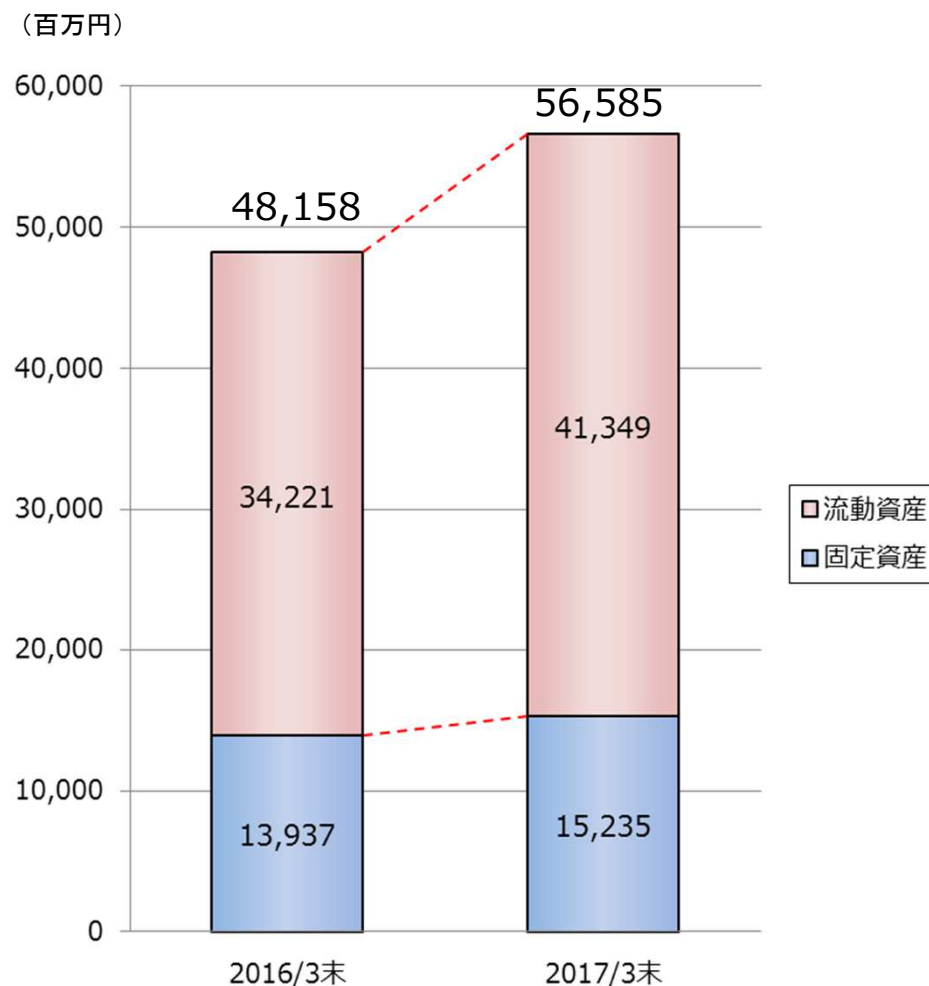
セグメント別営業利益推移



海外売上高推移



資産の状況



流動資産（前期末比 + 7,127百万円）

- ・現預金、有価証券の増加（+70億円）
- ・受取手形及び売掛金増加

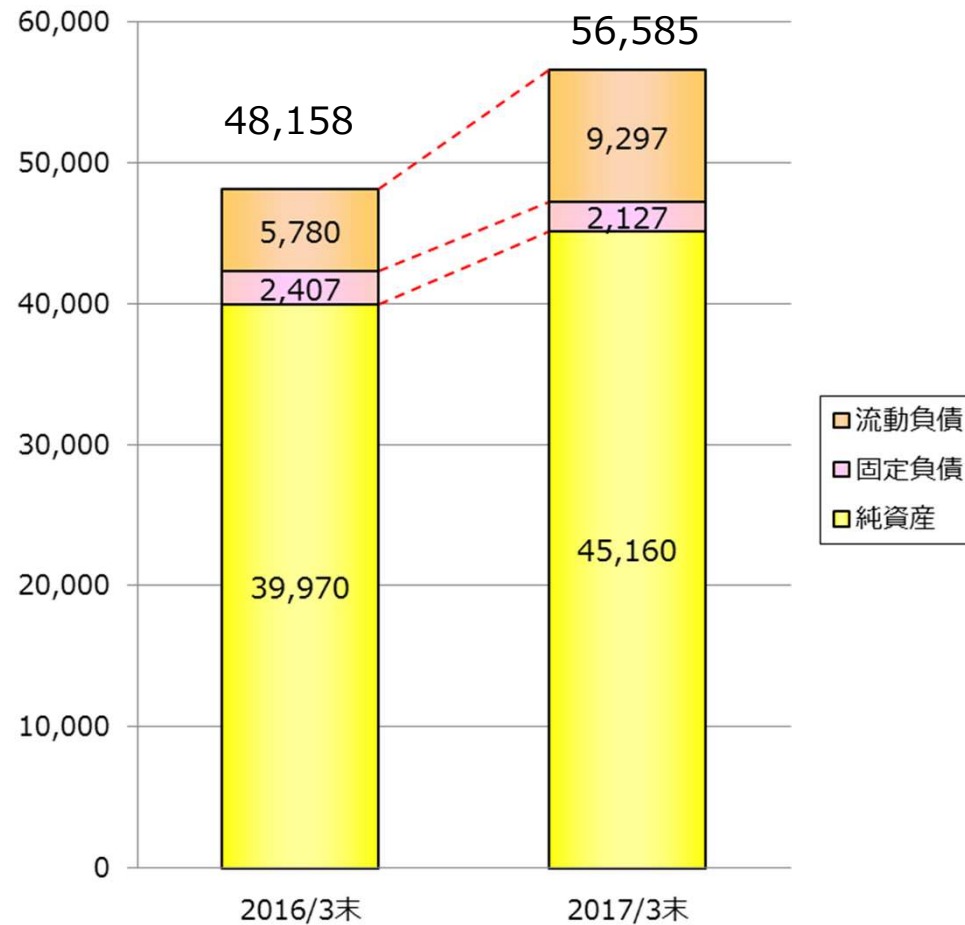
固定資産（前期末比 + 1,298百万円）

- ・建設仮勘定の増加
- ・投資有価証券の時価評価額の増加

負債・純資産の状況



(百万円)



流動負債（前期末比+3,516百万円）

- ・未払金の増加
設備未払金の増加
未払金の長期負債からの振替

固定負債（前期末比△280百万円）

- ・未払金の短期負債への振替

純資産（前期末比+5,189百万円）

- ・利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	前期 ('16/3)	当期 ('17/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	8,086	9,413
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,943	4,983
財務活動による キャッシュ・フロー	4,845	△1,533
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△296	△92
現金及び現金同等物 の増加額	5,692	12,771
現金及び現金同等物 の期首残高	5,521	11,214
現金及び現金同等物 の期末残高	11,214	23,985

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・税金等調整前当期純利益の増加
- ・減価償却費の発生
- ・仕入債務の増加

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・定期預金の払戻
- ・有形固定資産の取得

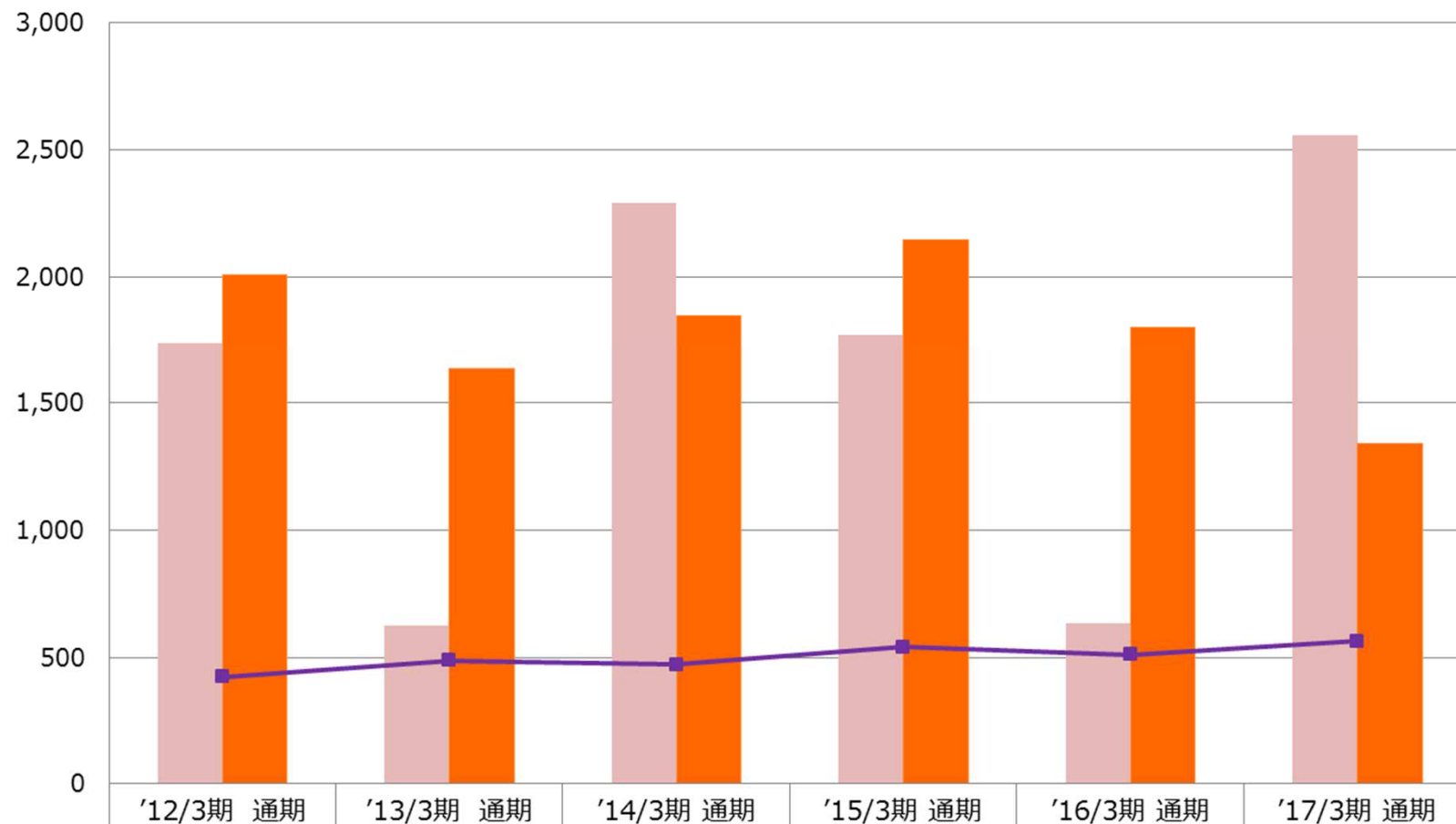
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・配当金の支払い

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

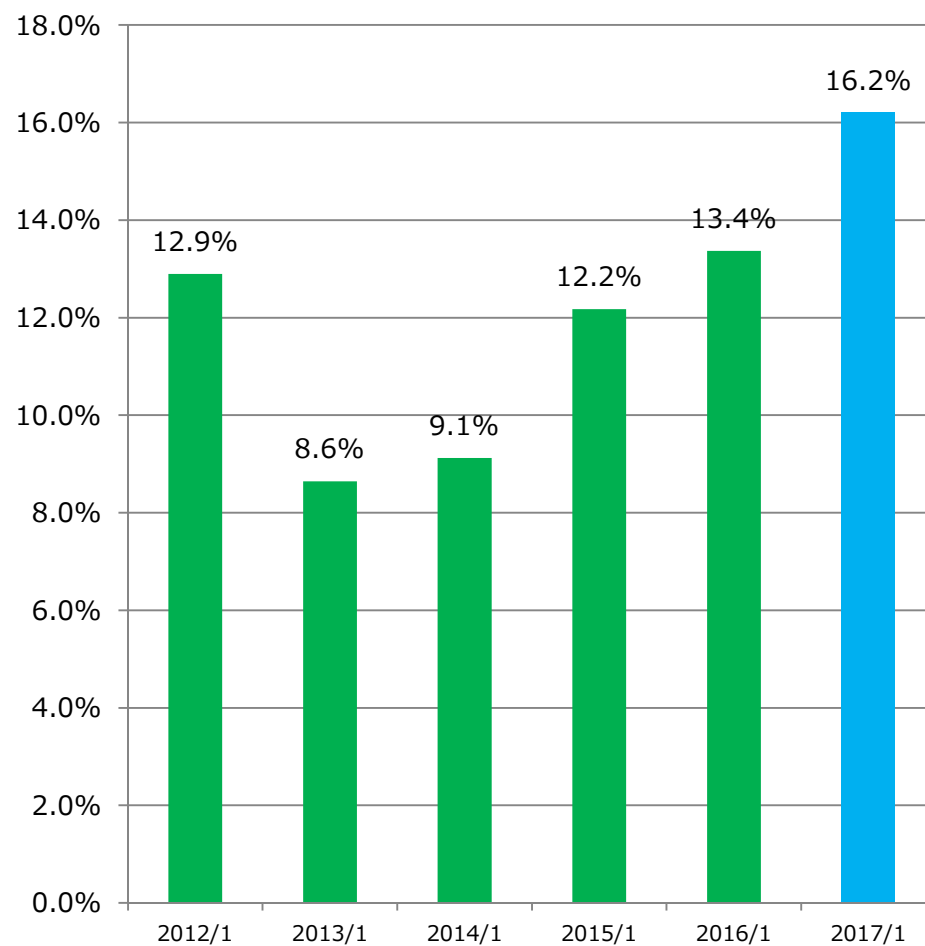


(百万円)

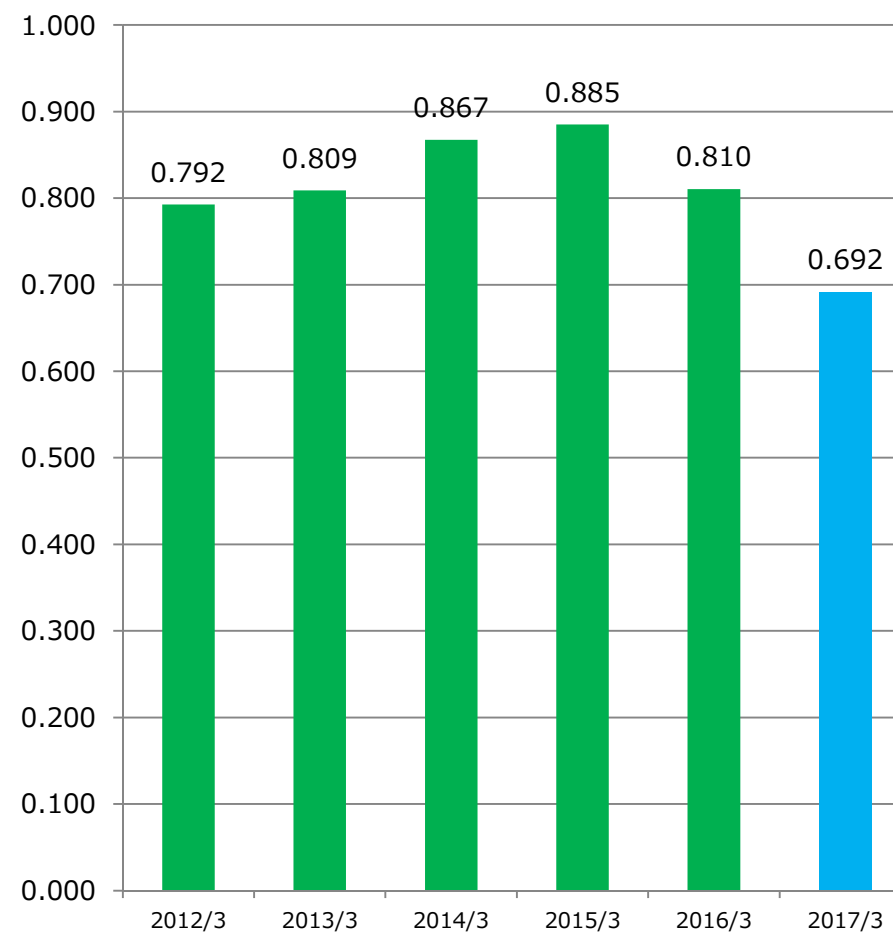


	'12/3期 通期	'13/3期 通期	'14/3期 通期	'15/3期 通期	'16/3期 通期	'17/3期 通期
設備投資	1,736	625	2,288	1,771	632	2,556
減価償却費 (のれん償却含む)	2,005	1,636	1,845	2,147	1,798	1,341
研究開発費	424	489	471	540	512	563

ROE (%)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況

セグメント別売上高・営業利益

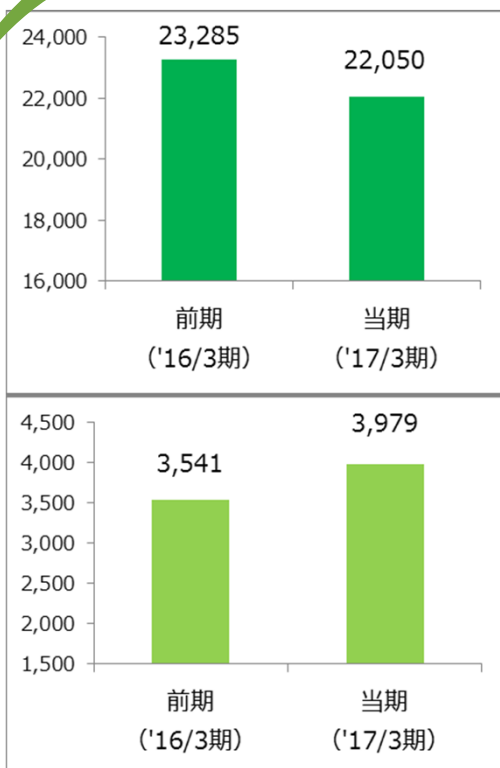


ライフサイエンス事業

(単位：百万円)

売上高

営業利益



前期 ('16/3期)	当期 ('17/3期)	前年同期比	
		増減額	増減率
23,285	22,050	△1,235	△5.3%
3,541	3,979	+438	+12.4%

◇売上高

<増加要因>

・リンゴ酸等の果実酸類の販売好調

<減少要因>

・円高による為替換算減
・ベンゼン価格下落による販売価格ダウン

◇営業利益

<増加要因>

・リンゴ酸等の果実酸類の販売好調
・円高による原料価格ダウン
・ベンゼン価格下落による原料価格ダウン
・コスト削減

<減少要因>

・円高による為替換算減

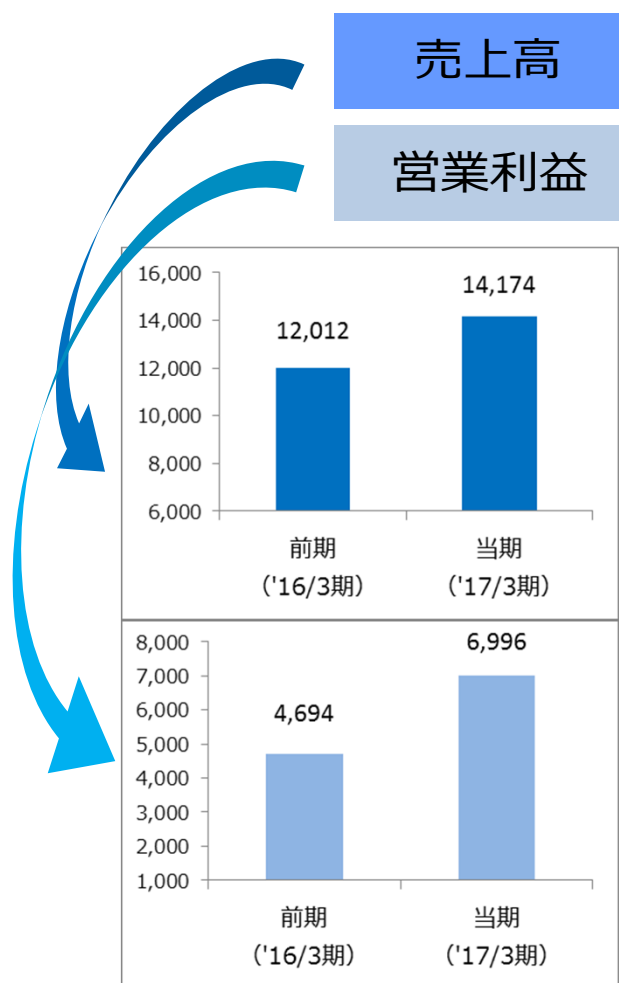
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位：百万円)

	前期 ('16/3期)	当期 ('17/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	12,012	14,174	+ 2,161	+ 18.0%
営業利益	4,694	6,996	+ 2,302	+ 49.1%



◇売上高

<増加要因>

- ・CMP向け増加
- ・中国市場がけん引するスマートフォン等, 半導体市場の成長
- ・最先端CMPプロセスでの当社製品採用
- ・価格是正
- ・ナノパウダー売上増

<減少要因>

- ・円高による為替換算減

◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増による増加
- ・円高による輸入原材料価格の下落
- ・稼働率向上による原価の低減

<減少要因>

- ・円高による為替換算減

ライフサイエンス事業

I .2017年3月期決算概要

II .事業の取り組み

(a) 鹿島工場承継／リンゴ酸新プラント建設

(b) グローバル展開

(c) 新製品の開発／新たな柱となるビジネスの創出

III .設備投資計画



事業内容



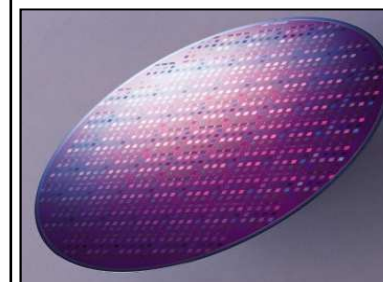
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- ★無水マレイン酸
- ★フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸
- ★2014年度下期より当社名での販売を開始



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



ライフサイエンス事業の取組み



リンゴ酸の原料から製品
までの一貫生産



鹿島工場承継／
リンゴ酸新プラント建設

日本における
少子高齢化・人口減少

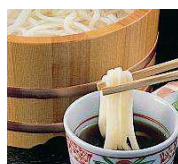


グローバル展開

さらなるビジネスの拡大



新製品の開発／新たな
柱となるビジネスの創出



鹿島工場承継／リンゴ酸新プラント建設



三井化学(株)からの鹿島工場承継

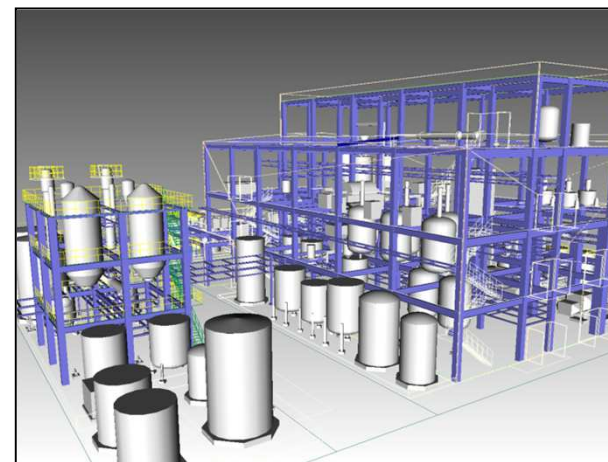
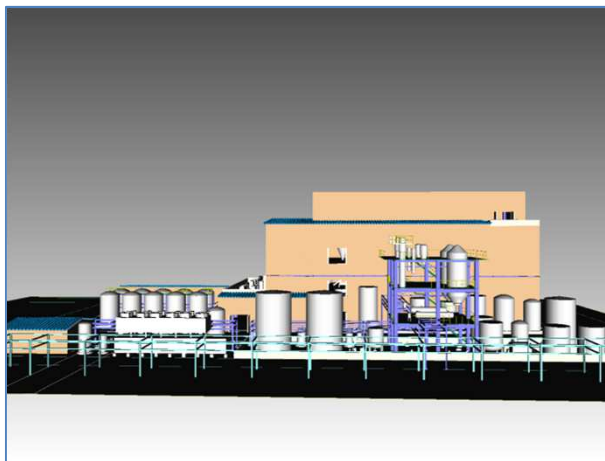
- ・今年末に予定されている三井化学(株)からの鹿島工場承継を遅滞なく完了
- ・鹿島工場を承継することにより、下記の2点が実現
 - ①リンゴ酸の原料（無水マレイン酸）から製品までの一貫生産
 - ②国内No.1のフマル酸メーカー



有機酸プラント（現状：三井化学鹿島工場）

鹿島工場内にリンゴ酸の新プラント建設

- ・2018年度中の完成を目標にリンゴ酸の新プラントを建設
- ・リンゴ酸の新プラントのコンセプト
 - ①世界最大規模の生産量
 - ②コスト競争力の強化
 - ②品質管理体制の強化



リンゴ酸の新プラント完成予想図

中国での展開

- ・100%出資子会社“青島扶桑精製加工有限公司”にての実施事項

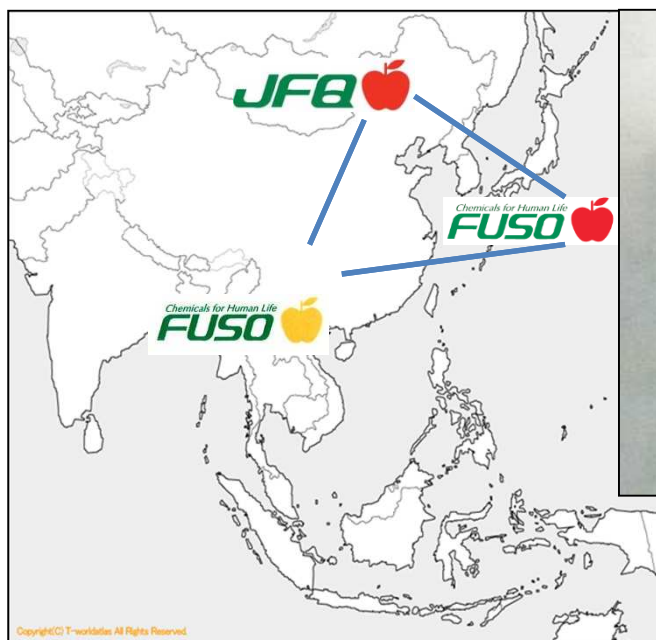
- ①高純度クエン酸の製造等、高付加価値製品へのシフト
- ②人件費の高騰への対処として、生産設備の自動化



青島扶桑精製加工有限公司

東南アジアでの展開

扶桑タイランドだけでなく、青島扶桑（中国）および扶桑化学（日本）のトライアングル体制で、加工食品市場等の拡大する東南アジア市場を取り込む。特に、今年4月に完成した東京研究所のテストキッチンを実効活用し、各国の食品や食材に適した食品添加物製剤の開発・製造を推進する。



東京研究所(テストキッチン)

新製品の開発

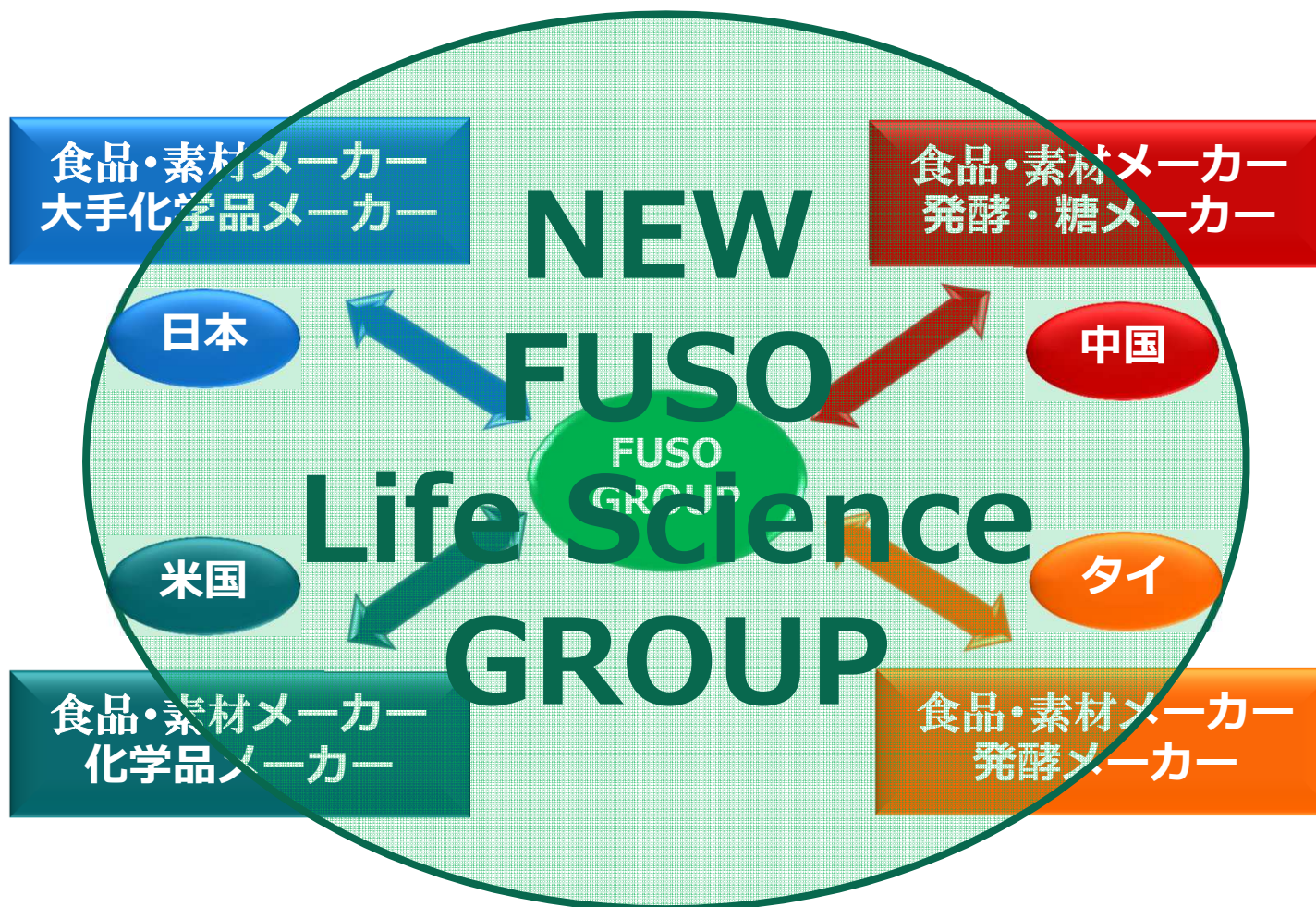
開発中の新製品

- ①一次産業向け製品（植物、家畜や魚の成長促進剤等）
- ②食品添加物製剤（鶏肉や魚肉加工食品の品質改良剤等）
- ③高付加価値製品（果実酸類の高純度品、コーティング品等）



新たな柱となるビジネスの創出

～ M&A・合併 ～



着手及び完了予定

	費用 (概算)	2016		2017		2018	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
有機酸製造設備買収 (鹿島工場)	10億						
					2017年11月予定		
リンゴ酸製造設備新設 (鹿島工場)	36億						
						2019年3月予定	

電子材料および 機能性化学品事業



事業内容



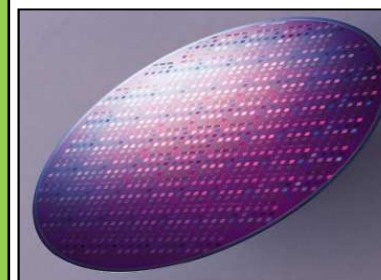
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- ★無水マレイン酸
- ★フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸
- ★2014年度下期より当社名での販売を開始



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



■ シリコンウエハポリッシング

- ◇最終研磨用途向け
→世界市場80%以上のシェア
- ◇一次・二次研磨向けにも展開



■ 半導体CMPスラリー

- ◇酸化膜 (SiO_2)
 - ・ 層間絶縁膜 (ILD)
 - ・ 素子分離 (STI)
- ◇メタル (W, AL, Cu...)
- ◇ポリシリコン、低誘電率膜 (Low-k)

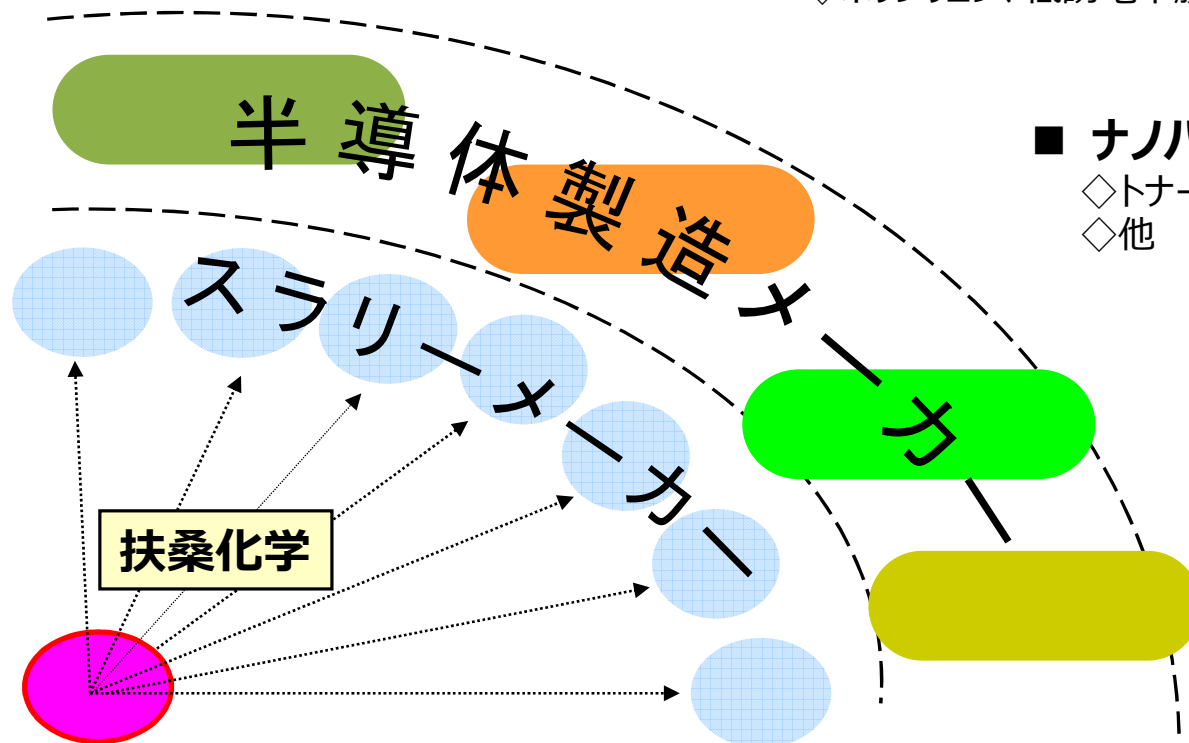


■ ナノパウダー

- ◇トナー用途
- ◇他

■ 新規用途への開発

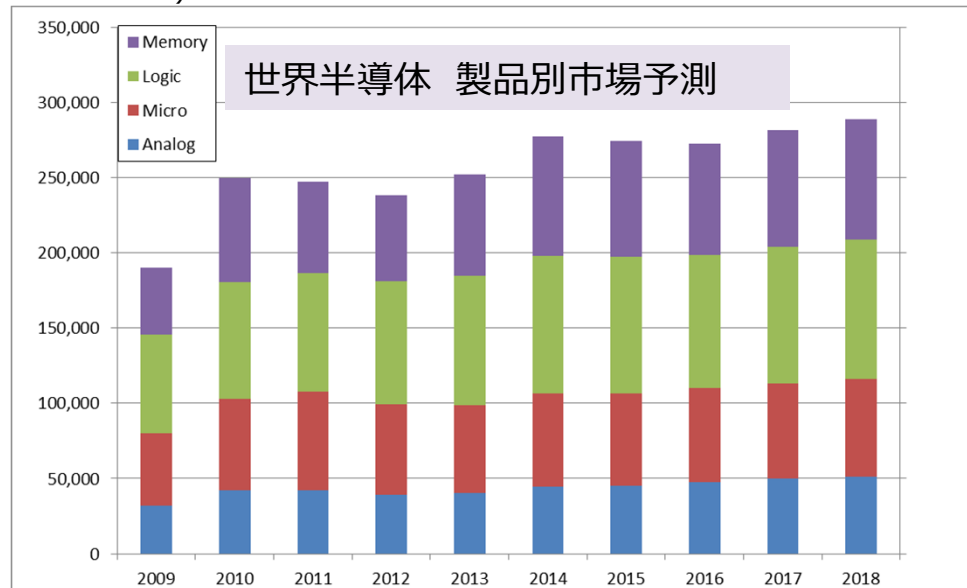
- ◇フォトマスクブランクス研磨
- ◇ナノフィラー、添加剤



半導体市場予測

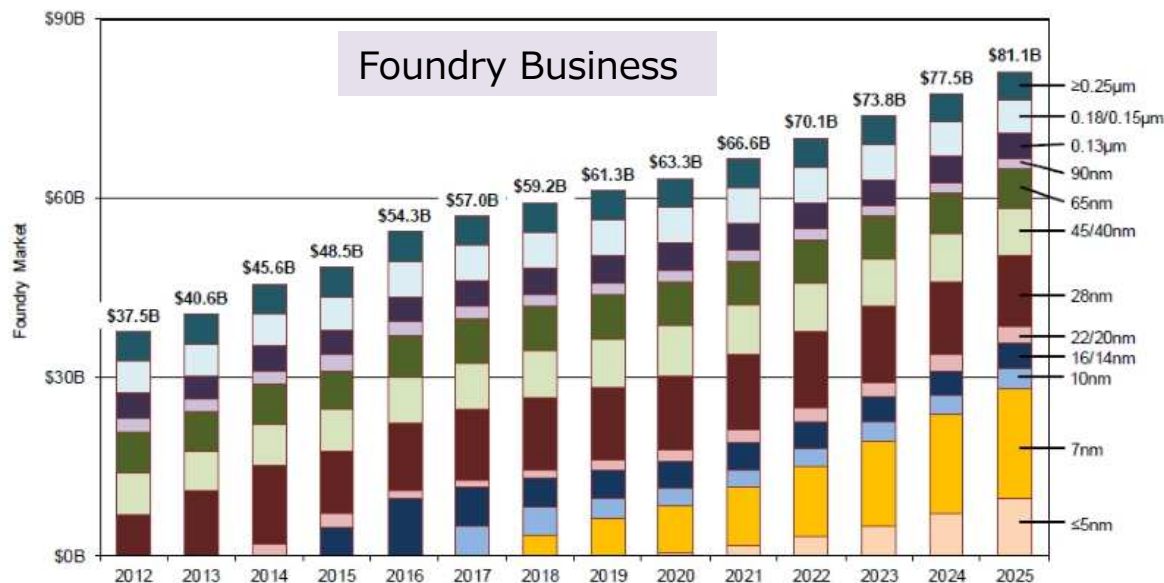


(単位：100万ドル)



半導体市場は、CY16-
CY18 年平均3%の伸び
率と予測

出典：WSTS2016年秋季半導体市場予測



プロセス世代ごとのファウンド
リー市場について、7nm世代
で急激な成長を見込む

出典：EE Times

・ IoT (Internet of Things) 時代の幕開け

- スマートフォンの主要市場では需要が一巡し、今後は買い替え需要に移行
- 2016年度上期は、iPhone 7販売に伴い売上は堅調に推移
- IoTの加速化。ドローン・車載自動運転等、半導体需要の拡大期待

・ 益々進む微細化 (10nmプロセスの立ち上げ)

- Intel/Samsung/TSMCが熾烈な開発競争
- 2016年末から2017年前半にかけて、各社10nmプロセスの立ち上げ計画

・ 中国半導体工場 「先端半導体技術で世界に追いつく」

中国政府主導で、半導体の内製化に莫大な投資

- ・ 前工程(ウェハ・プロセス工程)に数兆円規模の投資
- ・ 2030年までに世界トップクラスの半導体メーカーを数社育成
- ・ 半導体自給率を2025年度までに70%に

進化し続けるコロイダルシリカ

I. 新規設備、および既存設備へ 最先端技術の導入

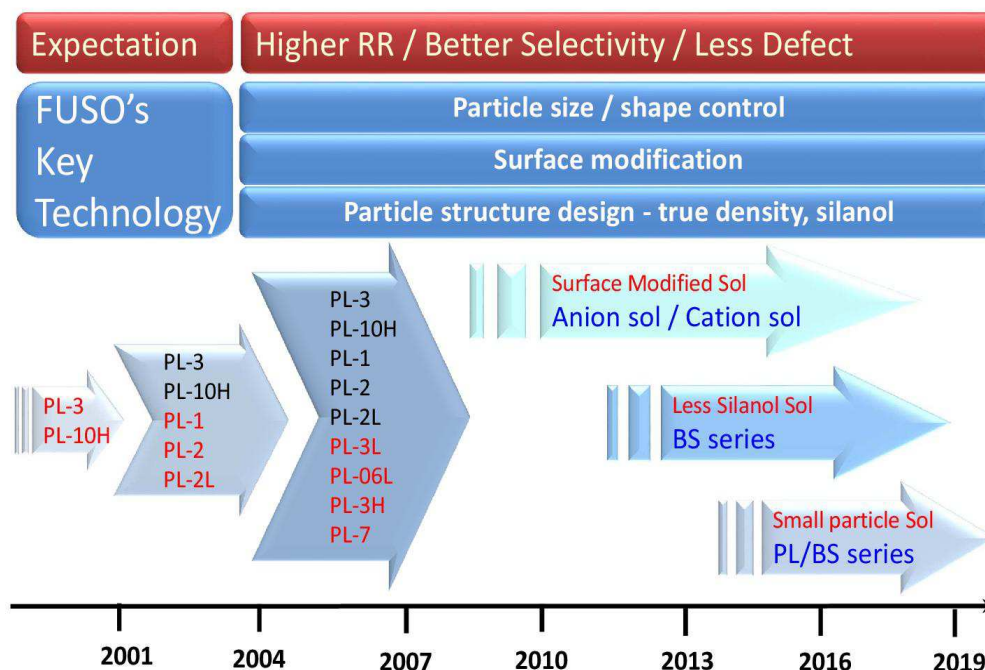
- ① シングルナノレベルでの
粒子径制御
- ② 効率生産向上
- ③ 粗大粒子低減

- ◆ ロット間の研磨レート安定化
- ・ 粒度分布のバラつき低減
- ・ 粒子径バラつき低減
- ◆ 研磨における面内均一性の確保
- CoAパラメーターのバラつき低減

II. 最先端の分析機器導入による 分析精度向上

III. ニーズに対応した製品を継続的に 開発するための研究開発投資

扶桑化学のコロイダルシリカ開発ロードマップ



開発拠点の整備



東西2拠点での開発加速化の為、各拠点を整備・拡張

1. 商品開発部 (京都事業所内)



2017年1月より運用開始（整備拡張&増員）
半導体向け研磨材の開発拠点
生産と連携した迅速な開発体制

2. 東京研究所 (神奈川サイエンスパーク内)



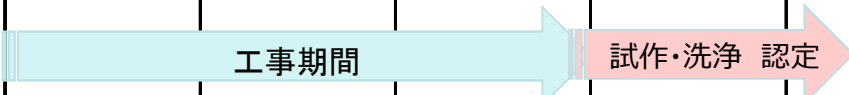
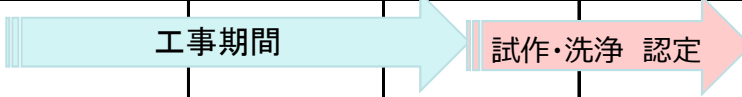
(東京研究所が入居するKSP外観)

2017年3月より運用開始（拡張&増員）
新規開発の中心的役割を果たす
東京研究所の開発の効率化・加速化

1. コロイダルシリカ製造ライン増設

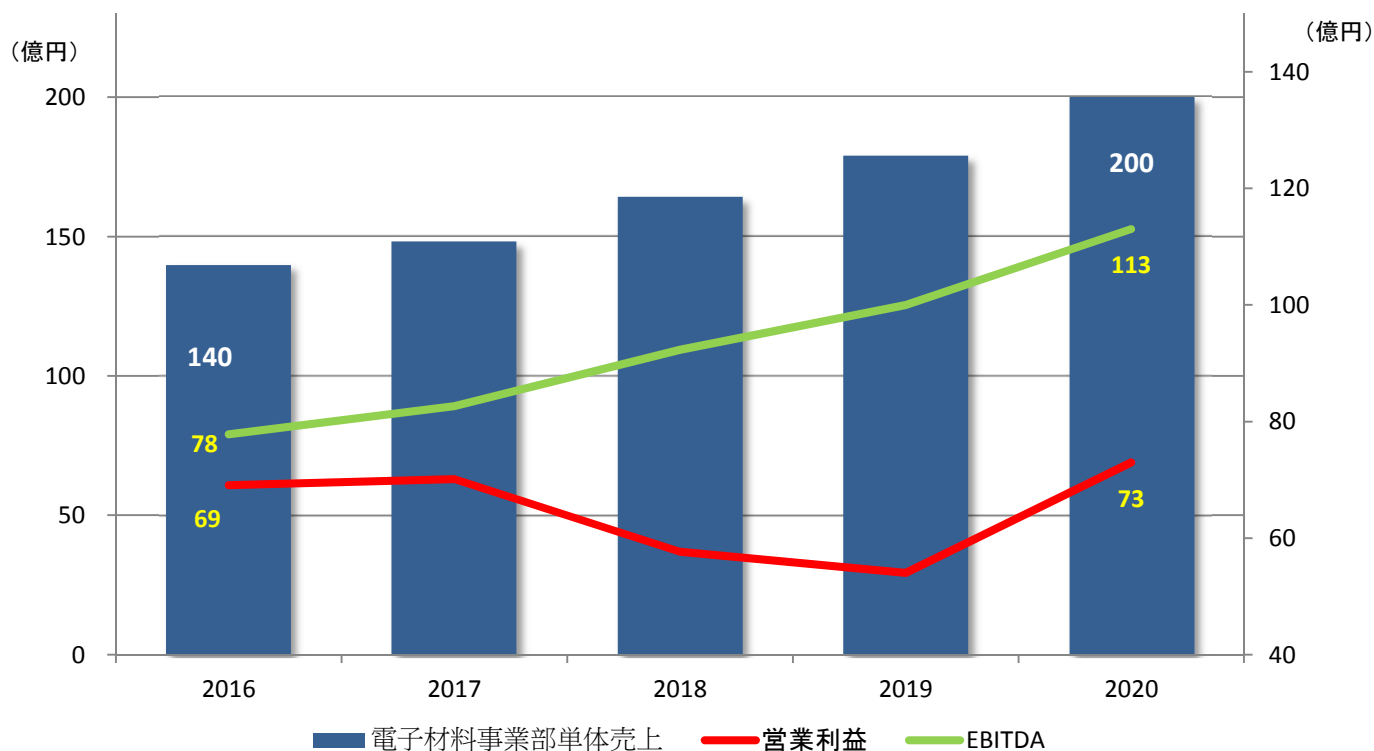
- ◆ 京都工場を世界一のコロイダルシリカ生産工場に！
 - ・シングルナノ配線への対応のため、世界最高水準の設備導入
 - ・品質のさらなる安定化
 - ・コスト削減のための自動化、及び効率的生産
 - ・環境への配慮

2. スケジュール

	改造費用 (概算)	2016		2017		2018	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
新製品対応設備	5億						
製造ライン増設(1)	48億						
製造ライン増設(2)	80.5億						

1. 損益計画

- ◆ 今後数年間で設備改良、増設に約180億円を投資
 - ・ 一時的に営業利益率は低下するが、EBITDAは増加を見込む。
- ◆ 2020年度には売上200億円 EBITDA113億円を目指す。



Ⅲ. 2018年3月期業績予想

2018年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)

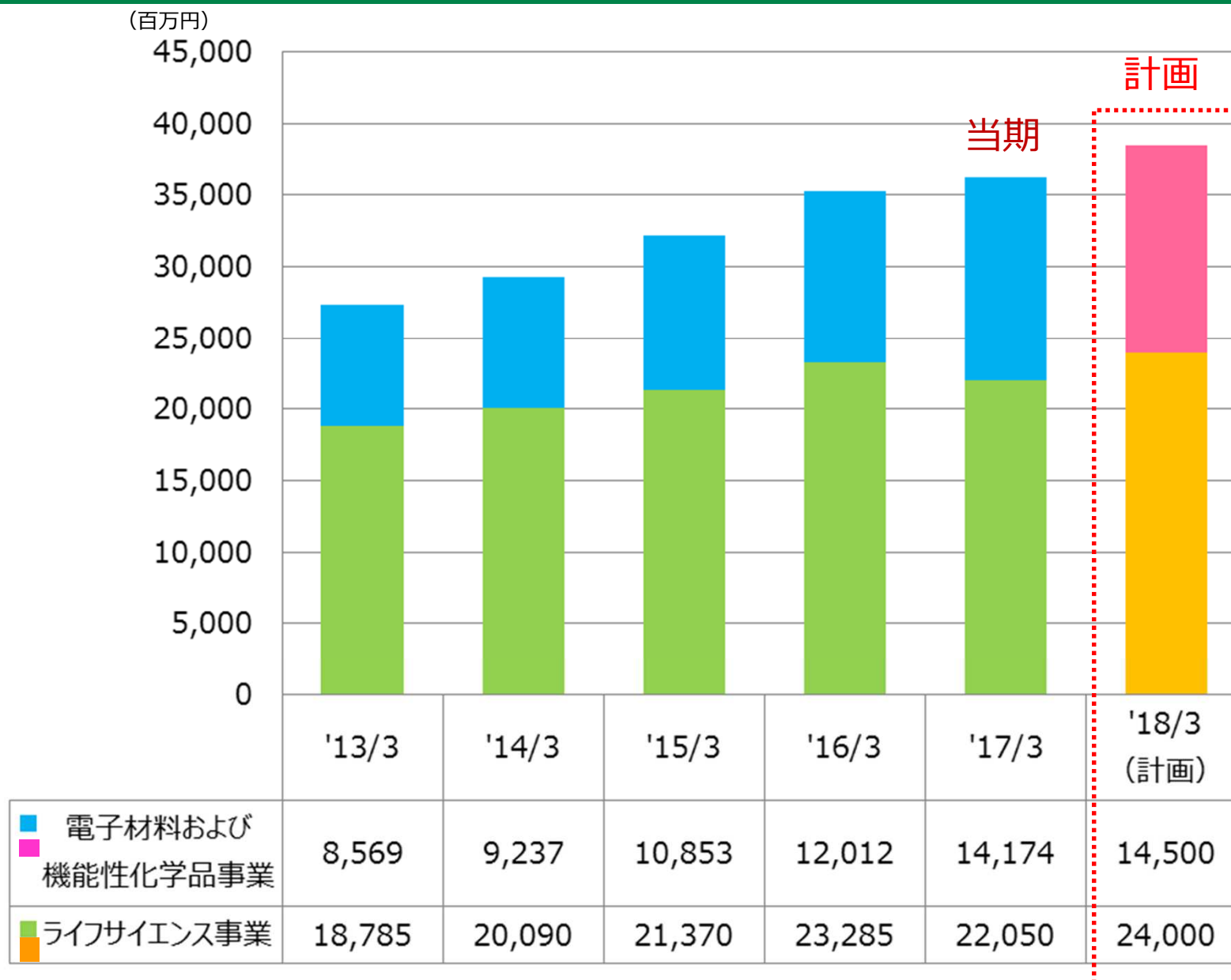
	'17/3期 上期 (実績)	'17/3期 通期 (実績)	'18/3期上期 (計画)	'18/3期通期 (計画)
売上高	17,232	36,224	18,700	38,500
ライフサイエンス事業	10,580	22,050	11,550	24,000
電子材料および 機能性化学品事業	6,652	14,174	7,150	14,500
営業利益	4,553	9,867	5,100	10,050
ライフサイエンス事業	1,911	3,979	1,800	3,850
電子材料および 機能性化学品事業	3,185	6,996	3,850	7,300
(調整額)	△542	△1,108	△550	△1,100
経常利益	4,459	10,038	5,130	10,100
当期純利益	3,056	6,895	3,530	6,950
償却前営業利益	5,202	11,209	6,020	11,820
一株当たり当期純利益	86.0 円	194.2 円	99.4 円	195.7 円

2017年度実施計画

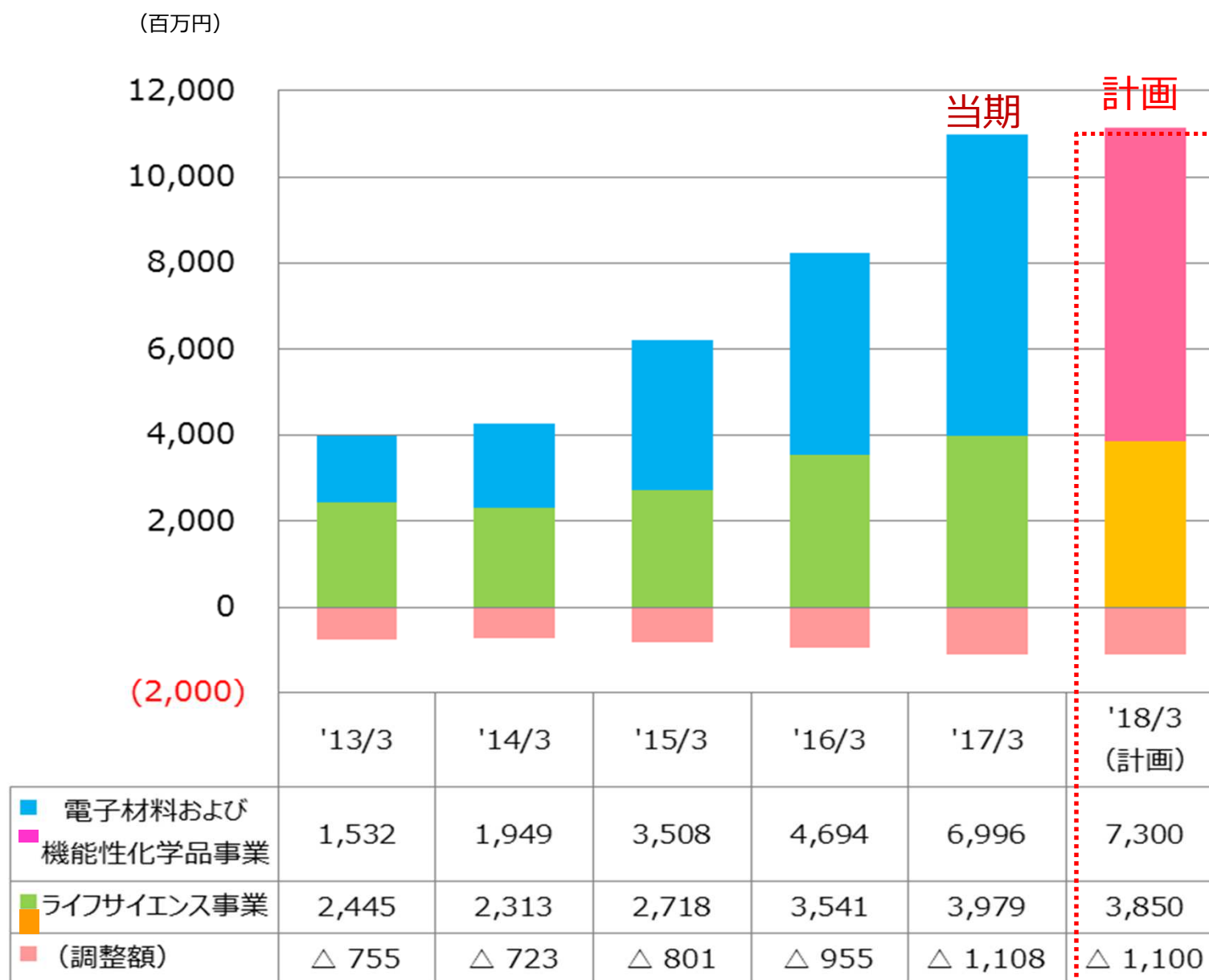
- ◆京都工場を世界一のコロイダルシリカ生産工場に！
 - ・世界最高水準の設備導入
 - ・市場拡大に伴う生産能力の増強
- ◆鹿島工場果実酸コンビナート計画：Stage1！

セグメント	事業所	設備の内容	投資予定総額 (百万円)	着手 (年月)	完了 (年月)
ライフサイエンス事業	鹿島工場	有機酸製造設備買収	1,000	平成29年11月	平成29年11月
		リンゴ酸製造設備新設	3,600	平成29年11月	平成31年3月
電子材料および 機能性化学品事業	京都事業所	超高純度コロイダルシリカの 新製品対応設備へ改造	500	平成28年7月	平成29年6月
		超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設および改造	4,800	平成28年10月	平成30年11月
		超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設	8,050 (内訳) 7,450 600	平成29年4月 平成30年1月	平成31年2月 平成32年9月

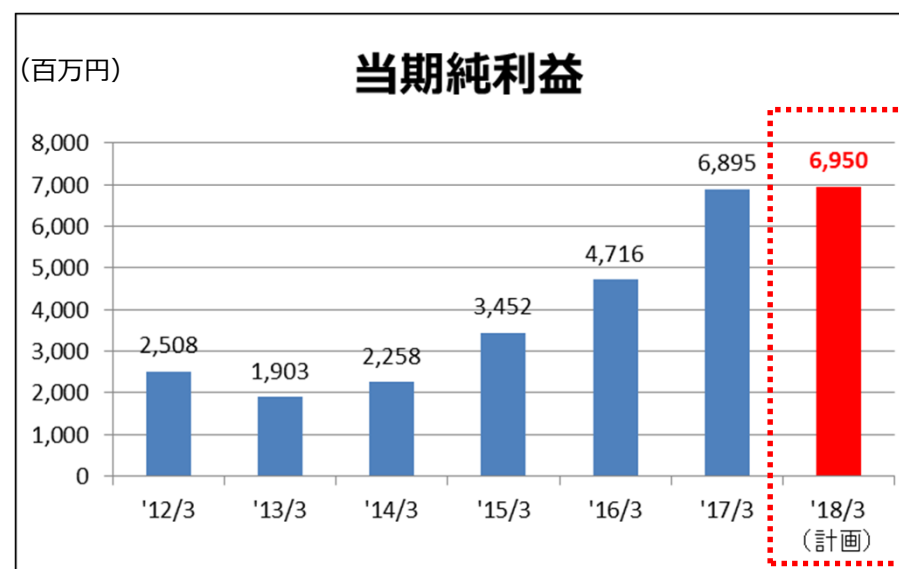
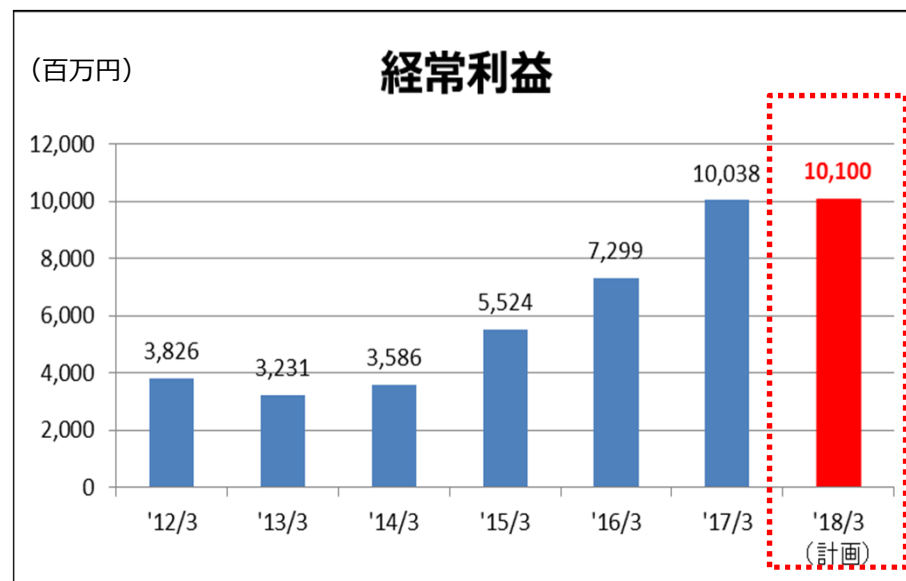
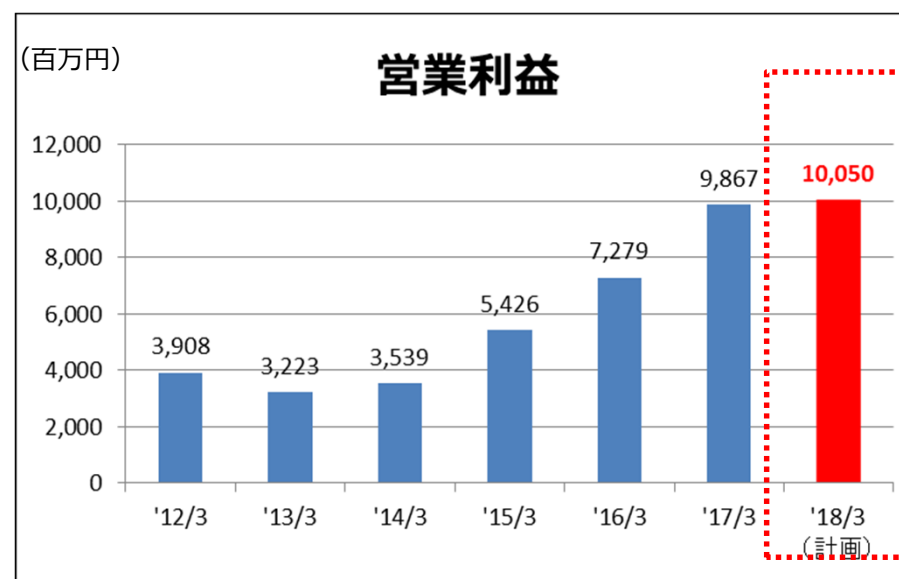
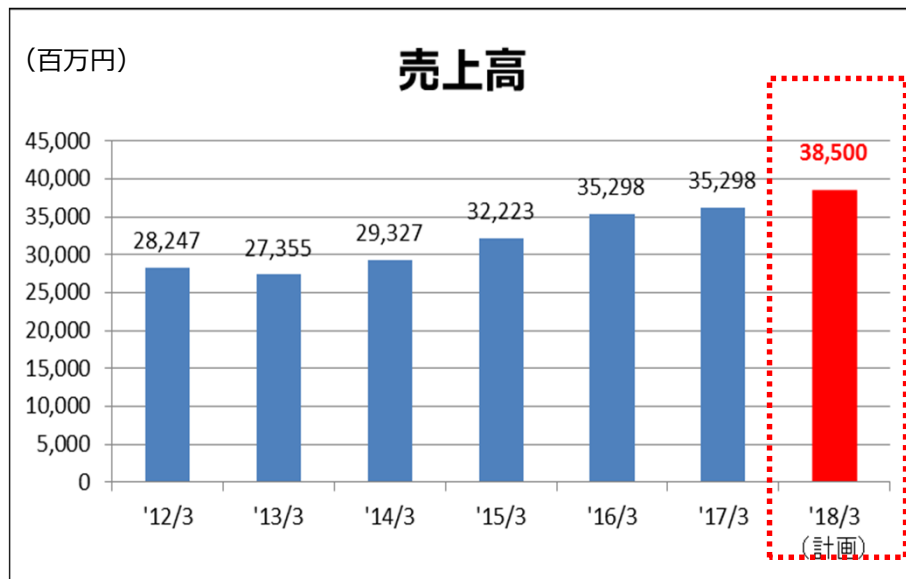
セグメント別売上高推移



セグメント別営業利益推移

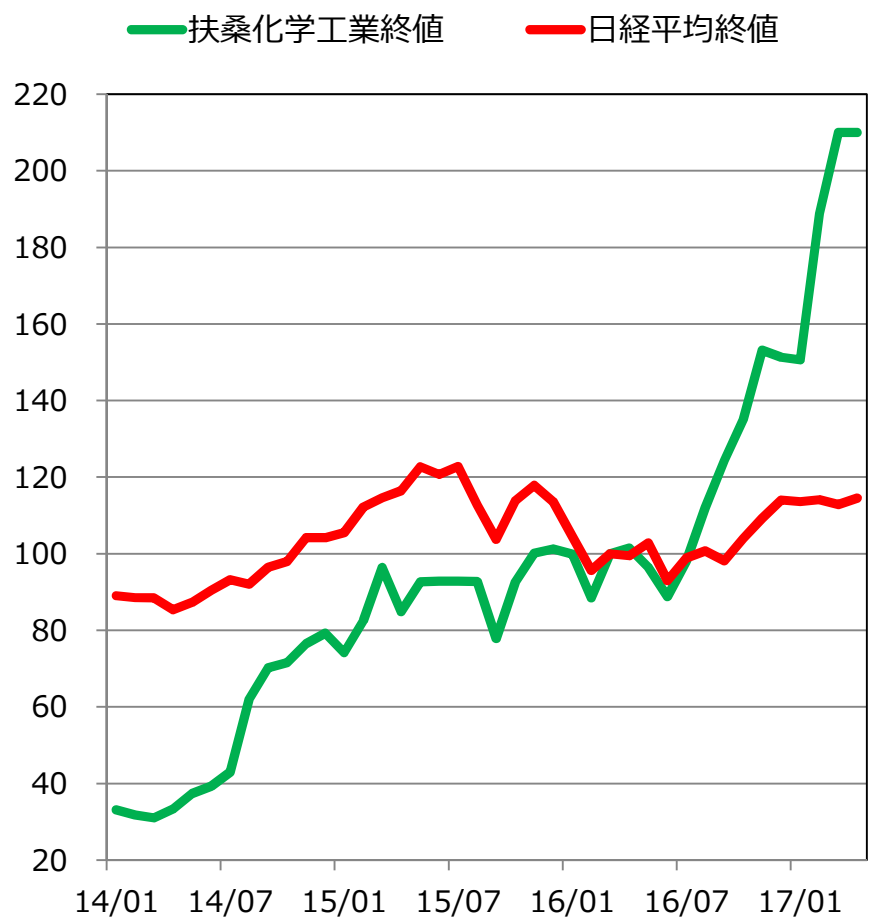


業績推移および計画



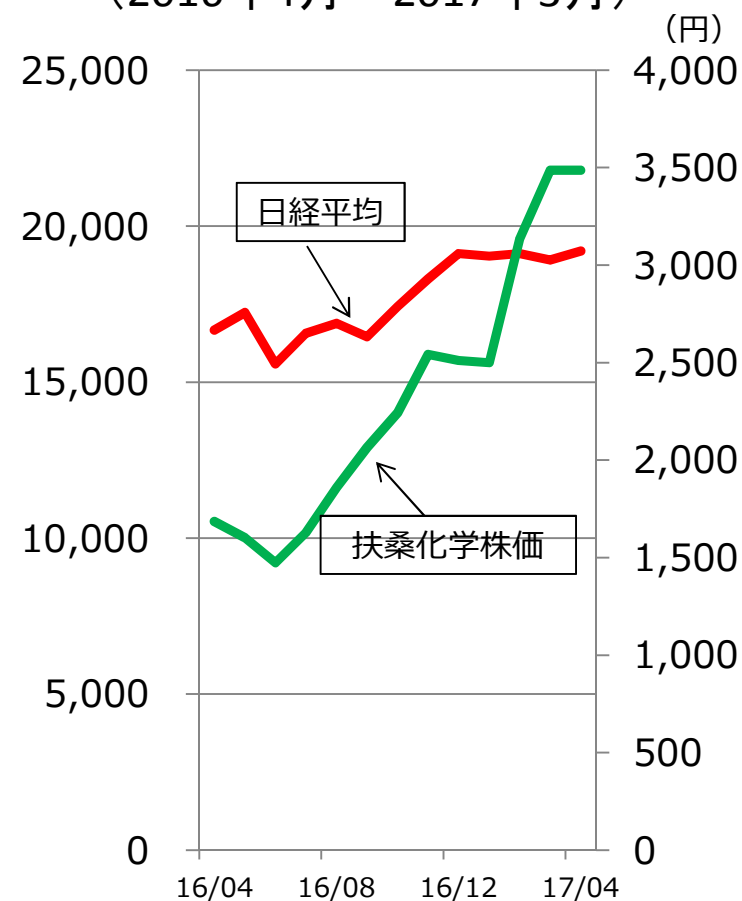
I. 株価推移

【2014年1月～】



(2016年3月基準 : 100)

【2017年3月期】
(2016年4月～2017年3月)



Ⅱ．配当金

5期連続増配予定

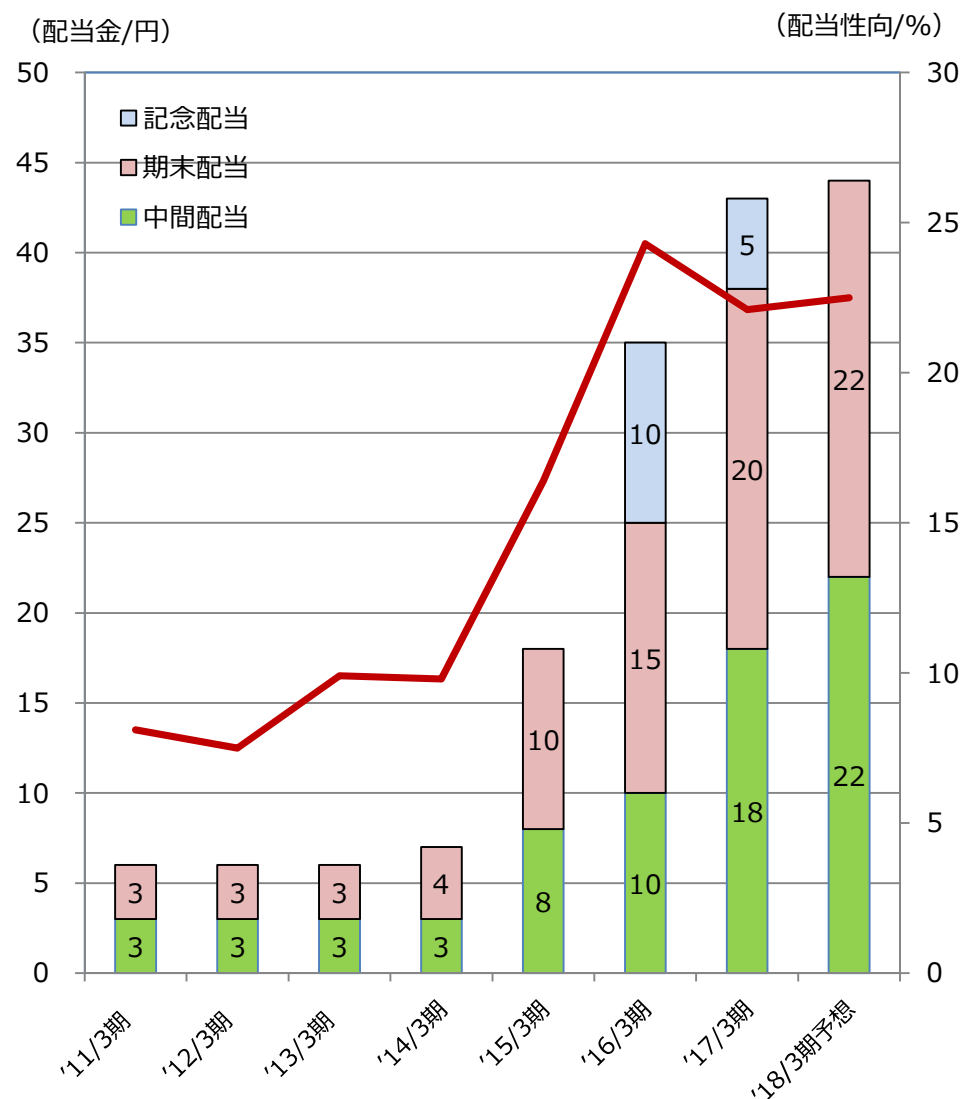
●H29.3月期：

前年度（35円）に比べ1株につき
8円増配

- ・記念配当金 5円
（創立60周年記念配当）
- ・普通配当金38円
（中間配当18円、期末配当20円）

●H30.3月期増配予想：

- ・普通配当金44円
（中間配当22円、期末配当22円）



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、グループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。

